

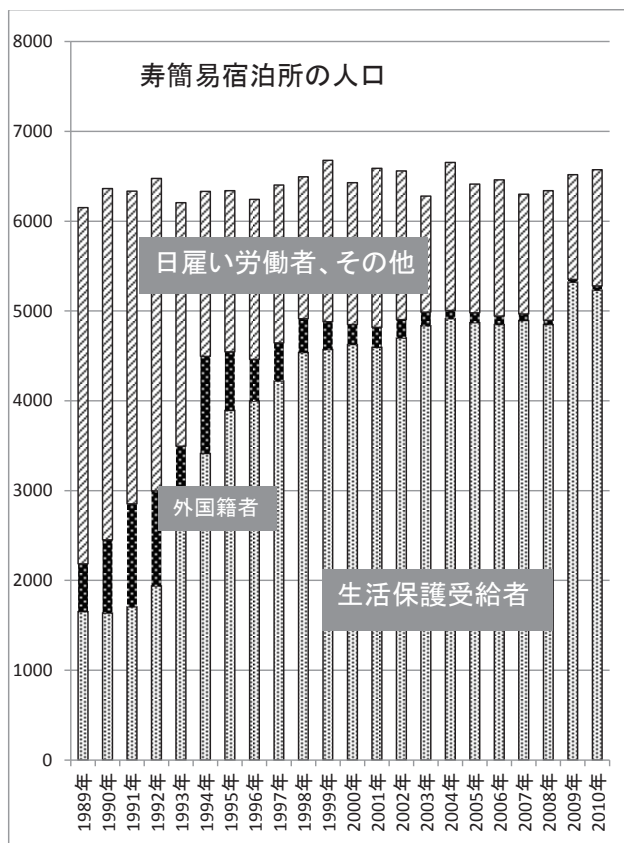
発行所 日本キリスト教団 なか伝道所
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 305
Tel. (045) 671-1109
振替 00200 - 1 - 47369
E-Mail : naka@church.jp http://church.jp/naka/
発行者 渡辺英俊 (題字 松橋 順)

宣教方針
① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
② 地域の問題に関わる。
③ 諸教会に呼びかけてゆく。
集会 主日礼拝 日曜日 午前10時30分より

寿に住んで

寿から教会を考える ④

奈良光男さんに聞く



寿福祉プラザ調べの統計に基づいて作成
(各年とも11月1日現在)

とせびられ、退職金の一部を渡しました。それからサラ金、クレジットカードローンを使いました。また兄貴をだまして金を持って来い！とまで言われ、挙げ句の果てにはその人の息子が購入する自動車に自分の名義まで貸す羽目になりました。妻はそこまで知っていたのかわかりませんが、二〇〇九年の八月、二年六ヶ月の結婚生活が終わりました。

寿の簡易宿泊所人口は、グラフが示すとおり、ここ二〇年余り六五〇〇人前後で余り変わっていない。
しかし、その人口構成は、日雇い労働者から生活保護受給者へと大きく変わった。日雇い労働者の雇用形態が、寄せ場での日ごとの雇用から派遣労働へと変わるにつれて、住む場所も寄せ場から日本社会の各地へと拡散して行ったからだ。外国籍労働者の急増と激減の跡が、その目印になっていると思われる。
今の住民は、大半が単身高齢者であり、障がいを持った人たちやアルコール依存症の人たちがそれに続く。現役の日雇い労働者は少なくなった。今や寿地区は、巨大な福祉の町へと姿を変えている。
今、この街に住む六五〇〇人の人たちには、ここに住むようになる六五〇〇通りの経緯がある。なか伝道所メンバーの奈良光男もその一人だ。奈良さんが寿に来て、なか伝道所に会おうまでの道のりを振り返っていただいた。

自動車事故から
寿に来て早二年近くが経ちました。今日までの三年六ヶ月の間に、まさか自分が…と思うような、自動車事故、離婚、ホームレスという体験をして、寿に住むようになりました。
それまでは、ゴミ回収車の運転をしていたのですが、運転中に事故を起こしてしまいました。自分がリストラの対象にされていて、ゴミ収集用の四トント

ラックを運転して次の集積所へ行く時間に遅れていたことが気になって、赤信号に気づかずには交差点に入り、前を走っていた乗用車にぶつかりました。それからは運転をしない仕事に回され、六ヶ月後には自己退職せざるをえない状況になっていました。
当時一緒に暮らしていた韓国籍の妻から、どうするだろうと何度も問われました。妻が三年ビザ(配偶者ビザ)の申請をするために、私の在職証明書が必要だと言われたのですが、自分はまだ仕事をしていたので、それを貰うことができませんでした。困っていたら、トラック・セクターで知り合った元ヤクザの人が、人に頼んで書類をもらってやるといので頼みました。書類をくれるという約束でしたが、それが落とし穴でした。その後、金、金とせびられ、退職金の一部を渡しました。

そして、東京の母と兄貴の所へ帰ったのですが、一週間ともたず、その後川崎に戻りました。仕事を探したけれど、住むところもなかったため例のヤクザの乗用車で寝泊まりしたり、公園で野宿したりしていました。すると今度はヤクザに、こいつはストーカーだと親分に言いつけられ、いろいろと一筆書かされたり、指をつめるとか、富士の樹海で死ぬとか、裸で公園を二、三周しろとか脅されました。挙げ句に車の中で硬球で頭を叩かれたり、殴る蹴るの暴行を受け、生きた心地がしませんでした。

そのような生活が二ヶ月くらい続きまして、頭の傷は硬球でやられたときの怪我で、歯がないのは当時殴られて変形したり曲がったりしていて、寿に来てから歯医者さんに一〇本くらい抜かれちゃったためです。

「寿へ行きやなんとかなる」

川崎の公園で野宿していた時、ある野宿者から、「寿に行きやなんとかなる」と言われました。それで、朝五時頃から寿へ向かって歩き出しました。とても暑い日で、照りつける日差しの中、腫れ上がった足を引きずりながら、金もない、何も無い、自分の存在さえもわからない、何がなんだかわからない状態で、腹がへって生ゴミをあさりました。

寿の生活館⁽¹⁾に着いて、野宿している同年代の男性と知り合い、一、三週間は関内駅の地下で寝ていました。生活館で過ごすことも多かったのですが、生活保護のこ

となど知りませんでした。いくつかの団体が炊き出しをしたり、食べ物配っているというところは少しずつ知るようになりました。そういう情報集めが仕事みたいになっていました。

そのうちに、支援者の人達と知り合い、一緒に中区役所へ行きました。医療保護とパン券・ドヤ券⁽²⁾がもらえるようになって、食べる心配は少なくなりました。今は生活保護にしてみましたから、何とか暮らせるようになりました。

ぴったりの教会

教会に行くようになったのは、そこで食い物をくれたからです。スタジアム前や関内駅前でおにぎりをくれるところがあり、礼拝に出れば食事をくれる教会がありました。食い物の情報はよく集めていましたから。九ヶ月くらいの間、日曜には行っていました。でも話を聞いていて、口先ばかり

で実行が伴っていないと感じるようになり、行くのをやめました。

炊き出しや野宿者の夜回りなどの活動に少しずつ参加していましたが、去年の夏まつりで農村伝道神学校の神学生と出会って、今までの出来

事話をしたら、君に

(注1) 寿生活館

寿地区の中に横浜市が設けている施設で、保育所、学童保育、町内会館などが入っている。その4Fには、だれでもいられるフリースペースがあり、無料で使えるシャワーや洗濯機が備えられている。

(注2) パン券・ドヤ券

横浜市では、1974年から寿地区緊急援護事業として、寿地区周辺に住んでいる人を対象に、緊急援護としてパン券・宿泊券を配布している。生活保護法の枠外での横浜市の施策なので、「法外援助」とも呼ばれる。パン券は、寿地区内の指定店で750円分の食品や必需品と交換してもらえ、宿泊券(通称ドヤ券)は、簡易宿泊所に無料で宿泊できる。利用者は、1日平均パン券約900人、宿泊券約600人とされる。

などを話しました。エイシユンさんが、さまざまな社会的活動をしていることを聞き、昔自分がいろいろと活動をしてい

たときの感覚がよみがえりました。それからほとんど休まず通うようになり、去年の一二月に洗礼を受けました。寿に来てから、炊き出しなどの活動をずっと見ていました。そこで生き生きと働いている人たちを見て、うらやましかつた。それまで自分は食う方だったんだけど、今はいろんな活動に参加し始めました。

最近ではなか伝の讃美歌のギター伴奏をエイシユンさんに頼まれたので始めました。路上生活の当事者であった自分が寿の活動をしていることが、なか伝の宣教方針にぴったりだと思っています。健康状態のゆるす限り、寿の現実に取り組んでいきたいと思っています。

(まとめ・文責 安藤真起子)

救援物資に運ばれて

③ 郭鐘洙

小一時間走ると検問所があった。ここから先は自衛隊の車と関係車両以外は通行止めだった。救援物資を搬送していると説明すると、赤い角印のある通行許可書を出してくれた。

ここから目的地までの道程は、三〇分ほどであったが凹凸が激しく、路面に食い入るようにして車を走らせた。

朝、9時30分に中学校に着いた。広い校門を潜り、指定された場所まで車の後部のドアを開け放ち、段ボール箱を下ろした。男女の先生たちや男子中学生たちが荷物を下ろすの手伝ってくれた。わたしたちはすぐに校長室へ通された。入ってみると室内は小綺麗で日当たりがよく、優にクラス分の広さがあった。校舎自体が新築で、前回の震災の時に大きくがっしりと建て直されたそう。

校長は義妹の弟。校長室には「一隅を照らす光」と書かれた半紙が掲げられ、大きな二つの金庫の上には日韓両国の国旗と剣道の面が置かれていた。この二つの金庫は、クレーン車を使わないと動かせないそう。少したってお茶を持ってきてくれた若い女の先生に、弟は自分の妻を指し、おもむろに、この人が校長の姉であることを、何か秘密でも明かすようにささやいた。周囲にいる数名の女生徒が一瞬驚きと喜びの声をあげた。もう荷物は校長室に運び込まれ、仕分けが始められていた。

校長は入ってくるなり姉に小声で、「ちょっと待って」と言って出て行った。それから五分ほどして戻ってくると、姉、従姉との久しぶりの対面となった。義妹宣子と同名、

風景

使信

光が世に来た

渡辺英俊

万人を照らす真の光があった
その光は世に来て、世にいた
世はこれによって成ったが
世はそれを知らなかった
光は自分の仲間のところへ来たのに
仲間たちは光を受け入れなかった

理は肉となつてわれらの間に宿り
われらはその栄光をつぶさに見た
父と共なる独り子としての
恵みと真に満ちたその栄光を
(ヨハネによる福音書一章九〜一四節 私訳)

キリストの誕生日?

クリスマスはキリストの誕生日だ
……ぐらい、誰でも知っている世界の
常識なんですけど……。でも、なぜ「イ
エスの誕生日」じゃないんでしょう？
生まれたのはイエスという一人の人の
ずなのに……。

「キリストの誕生日」としてのクリ
スマスは、余りにも飾り立てられ過ぎてい
ると思うんですよ。十二月二五日という

日取りからして、ローマ帝国の冬至の
祭りのパクリだったり。ルカやマタイの
福音書は、「ダビデの血筋から生まれた
神聖な王様」の誕生というイメージで飾
り立てた物語を作ってしまったているん
ですね。
「キリスト」(ギリシャ語)という称号
の元になった「メシア」(ヘブライ語)
は、「油注がれた者」という意味で……。
旧約時代に、王の即位や大祭司の任職
の際、頭に香油を注がれたのが由来で
……。世の終わりの審判の時に、神から

理想の王様が世に送られて来る……とい
う期待が「メシア」を待望するユダヤ教
の信仰になつていて……。最初の教会は
「イエスがそれだ!」と考えてイエスを
メシア(キリスト)と呼んだ……。

でも実際のイエスは自分を、王だとか
大祭司だとかいう国家のトップになぞら
えようなどは、露ほども考えていなく
て……。むしろトップと対極のボトム
である仕える者、奴隷、低き者こそ尊い
と教え、自分もそのように生きたん
ね。人間の尊さは、力を振るい、支配し、
奪うことではなく、人を受け入れ、仕
え、癒すところにある……。イエスの生
きた姿から受け取るのはそういうメッセ
ージなんです。

だから、神から送られて来る特別の
人を「メシアキリスト」と呼ぶとすれ
ば、それは上から支配する権威・権力と
は、まったく違う意味で受け止め直さな
ければならないと思うんですよ。

えーとねえ

誕生日プレゼント

とみ「お母さん、誕生日プレゼントあげる。いつでも使ってね。」
母「ありがと〜!」

感動しながら開いてみたら
肩たたき一回一〇円券と、お使い五〇円券でした。

ちゃっかり者の 遠藤友実 九歳

の従姉が慰めるように口火を切った。
「こんなことでもなければ、めったに会
うこともないねえ、和彦ちゃん。」
校長は少し目が潤んだようで無言で頷
いたが、表情に力がなく、精神的にも肉
体的にも疲労している様子だった。平均二時
間くらいしか寝ていないことを後で知っ
た。石巻へ案内される途中でもコックリコ
ックリやっていた。案内役をしながら眠っ
てしまうのである。すると後部座席の姉に
起こされることになる。

彼は、校長室に入ってくる生徒には誰
彼なくかけ声をかけていた。熱血先生で通
っていた。二年前までは、津波でやられた
矢本第二中学校に勤務していた。剣道七段
で国体で優勝した経歴の持ち主である。二
〜三分震災の様子を聞いてから、彼自身
も仕事に追われて震災の様子を知らず、二
日前に電気が来たばかりだということだ、
わたしたちも覚悟を決めて石巻に行つてみ
ることにしたのだ。津波を受けなかつ
た彼の中学校の体育館にはまだ八〇〇人が
避難してきていた。(続)

〈ロゴス〉 〓 理

ヨハネによる福音書は、イエスとい
う人は神の〈ロゴス〉が肉となつてこの
世界に宿つたのだ……と言っているん
ですね。

〈ロゴス〉は、これまで「言」と訳さ
れて来ましたが……。コトバは浮動す
る音声記号に過ぎません。だから「こ

とば」と訳したのでは大切な意味が消えてしまふんですね。そうではなくて、神がすじみちあるものとして世界を造られた、その「理Ⅱすじみち」がロゴスなんです。人間は神に背いてこの「すじみち」を踏みにじっているんですけど。でも「すじみち」は踏みにじられてはならないものとして確かに存在している……。イエスという人は、その「すじみち」を地で行った人で……。神に造られた本来の人間の在り方（それが「すじみち」ということ）を実現した人で……。だからイエスを見れば「すじみち」が見えるんですね。

本来の自分を見失っているわたしたちですが、イエスを見ると、神がわたしたちをどういふ存在として造ってくださったかが分かる……。本来の人間性という光がここにあって、この光に照らされると、わたしたちの中の失われた人間性が息を吹き返し、自分を取り戻すことができるんですね。

……。イエスという人は、その「すじみち」を地で行った人で……。神に造られた本来の人間の在り方（それが「すじみち」ということ）を実現した人で……。だからイエスを見れば「すじみち」が見えるんですね。

だからこのイエスを、神から送られた特別に特別な人……という意味で、「油注がれた人」（メシア）と呼んでもいい……。いや、もうほかに呼び方がないんでぜひそう呼びたい……というのがわたしたちの信仰なんです。

まど

▽一月三日、カラバオの会の新事務所お披露目会。やや手狭ながら、窓の大きい明るい部屋になって、六〇人の参会者と各国のご馳走。2DKの事務所で立ったまま乾杯を済ませ、なか伝道所に下りてパーティー。二軒続きの威力で六〇人がゆっくり座れ、苦勞した引越の効果を実感。

▽一月四日一日五日、国会議員の方々を立てを得て移住連の省庁交渉。例年の行事ながら、現場からの声を集めた関係省庁への質問書にそれぞれ答えてもらい、こちらから改めて質問する形で。

▽求職者への職業訓練で、日系ラテンアメリカ人への日本語訓練を加えよという

こちらに求めに、語学教育は入れられないと答えた厚労省職業訓練の担当者。ところがハローワークの担当者は、日本語能力が求職のネックになっている。日本で日本語を教えるのが、外国語と同じ「語学教育」と考えるのがおかしいと突っ込む。同じ省庁の中でこんな矛盾があるのを掘り出せるのも効果の一つ。

▽一月五日、国連特別報告者の勧告の実行を求める首相への要望書を持って官邸へ。齋藤官房副長官が対応し受け取って下さる。神奈川選出で、カラバオの会が法務大臣への要望を出すときなどに取り次いで下さった議員さんとの官邸での再会。立場上かえってむしろかしくなった面もあるとはいえ、少しずつ、声が届き始めたことも事実。（渡辺英俊）

片隅の出来事

「光は自分の仲間たちの

ところへ来たのに

仲間たちは光を受け入れなかった」と、ヨハネによる福音書は書いています。イエスの実現した本来の人間性は、「万人を照らす真の光」なんです……。権力・富・知識を求める世界では、それが受け入れられない……。それほど自分を見失っている世界が、イエスを十字架にかけたんですね。

教会は……。クリスマスチャンは、そうじゃない……。と言えたらよかったですけど。キリストに金の冠をかぶせて王様に仕立て上げ、天にまで祭り上げたキリストの盛大なクリスマスを見ると、キリスト教も「世」の一部でしかないと思えるんですね。

そういう世界の片隅で、ひっそりとイエスは生まれる……。この世で最も低くされた人びとの場で、仕える人たちの中で、人間らしさの光として……。このイエスを「自分たちの仲間」として迎えるのがクリスマスなんです。そういうふうに「キリスト」の誕生を祝うクリスマスにしたいと思うんですよ。

クリスマス献金のお願ひ

寒い季節がやってきました。今年もクリスマスをお祝いし、今年もクリスマス献金をお願いします。

震災、原発事故により辛い思いをしている方のことを考えます。この街の片隅にいて飛び込んでくる色々な出来事があります。そしてそれぞれの場で「ここに神がいてくださる」と信じて問題に取り組む仲間がいます。クリスマスにはそんな一年を振り返れたら……と思っています。

今年も、クリスマス献金をお願いします。昨年は五五二、九〇〇円のご支援をいただきました。皆様のご支援を感謝し、今年も伝道所の活動のためにどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

支援献金（九月份）

支援献金（十月份）

感謝してご報告します。

渡辺英俊著新刊

「虹を追ってーある牧師の五〇年」

ラキネット出版 ¥1000 送料 ¥210

目次

- 第1章 模索の四半世紀
 - 第2章 疾走の四半世紀
 - 付論Ⅰ 対談「草の根の解放の神学を訪ねる」
 - 付論Ⅱ イエスを読み解く鍵
 - 付論Ⅲ 都市社会下層の地域共同体
- 申し込みは、振替でなか伝道所へ